

啄木ゆかりのカルタ寺

本行寺の門信徒会報

— 来た道・ゆくと道 —

第82号

2024年1月1日



FMくしろヘリンク

本行寺門信徒会 釧路市弥生2丁目 TEL 41-5329

<http://www5.ocn.ne.jp/~hongyou/>

E-mail hongyouji@poppy.ocn.ne.jp



明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今回の表紙は昨年七月に四年ぶりに行われたキッズサンガ寺子屋子どもの集いの写真です。釧路市内各地より小学生から中学生まで二十名のお子さんが参加して下さいました。ありがとうございました。詳しくは第四面に掲載されていますので、そちらをご覧ください。

写真をご覧になり、皆さんはどのような印象を持ちましたか？私は子どもたちの笑顔ほど、私たちの心を和ませ、癒してくれるのは、この地球上に他にはないのではないかと思います。

そして、子供たちが笑顔でいられることが、今の私たちが平和で暮らしているという何よりの証です。しかし、世界に目を転じますと、ウクライナ戦争やパレスチナ紛争をはじめ、それら以外にも多くの国や地域で戦争や紛争が起こっ

子どもたちの

笑顔のために



本行寺 住職
菅原 顯史

ています。そのどれを見ても、一番の犠牲になっているのは子どもです。この瞬間にも多くの子どもたちの尊い命が失われています。子どもには何の罪もありません。その子ども達が、逃げまどい、涙を流し、泣き叫び、血を流している様子をテレビなどで観るたびに、涙が溢れ、やるせない気持ちから胸が張り裂けそうな思いになります。皆さんも同じだと思います。

浄土真宗にとって最も大切な『仏説無量寿経』の中に『和顔愛語』という言葉があります。「和顔」おだやかな笑顔「愛語」思いやりのあるやさしい言葉という意味があります。浄土真宗の教えは南無阿弥陀仏のお念仏を申すことが大切であると説きます。それはお念仏を申すことによって、普段気づくことができなかつた自分の心が見えてくるということです。その見えてくる心とは

三毒の煩惱と言われる「貪り」「瞋り」「愚かさ」です。欲望のままに貪り、互いに憎しみ合う、醜い愚かな心のことです。この和顔愛語の教えをいただいたとき、三毒の心にも気づくはずです。そして、穏やかな顔となり、優しい心を持ち、自ずと平和への道が開かれていきます。これからもお念仏を申し『和顔愛語』の心で平和の大切さを訴え続けて参りましょう!!

合掌

新年にあたって



会長 顯治 市種
本行寺門信徒会

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、ご健勝にて新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は会の運営にご協力ご支援をいただき厚く御礼申し上げます。本年もよろしく申し上げます。

安穩な暮らしを求めるのは人間として当然のことでしょうが、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルとハマスの対立、北朝鮮の偵察衛星打ち上げによる他国の情報収集作戦など、不安の多い世界の状況が見える一方、国内は物価上昇の気配が続いています。岸田総理は経済対策について賃上げと減税、給付で対応すると考えておられるようですが、給与所得者は賃上げを、しかし年金を上げるとまでは……。不公平なことにつながる

のではと考えるのは間違いでしょうか？

コロナが感染症の5類にかわって落ち着いて来ましたが、インフルエンザの感染が拡大する心配が開始しました。健康には気をつけましょう。

世界情勢や国内経済の動向、感染症への対応等々を考えると、大切なのは早く平穩で安穩な世の中になるのを皆で願うことでもあります。

私たちは念仏者として、人類の幸せと世界の平和を願いながら「南無阿弥陀仏」を唱える活動につとめましょう!

合掌

秋の日帰り遠足

光寿会 板宗利

令和五年九月三日(日)、門信徒会の日帰り遠足が四年ぶりに実施され、阿寒町の赤いベレーに行つて参りました。

新型コロナウイルスもやや落ち着いたため、久しぶりに皆さんと楽しい時間を過ごすようにと開催に至りました。

当日は天候にも恵まれ、二十五度という暑いくらいの気温の中、バーベキューを囲みながら親睦と交流をすることが出来ました。

このような企画を通して、門信徒の一員としての自覚と信念を新たにしたいと思っています。今年も多くの参加をお待ちしております。



宗祖 報恩講法要

十月十六日

院代 相 撲 浩 心

令和五年の報恩講も新型コロナウイルスが、2類から5類に移行されても未だ終息のめどが立たない中、例年の日程を大幅に縮小し組内のご法中にご案内はせず、院内でのお勤めとなりました。

法要はご満座法要と永代経法要を併せて一座法要という寂しい形の報恩講法要となりました。

御講師の先生は北海道鹿追町より、上本周司先生をお迎えしました。大変人気のある布教使の先生ですので、たくさんお話しを聞く事が出来ずもったいなく残念でした。

歳を重ねると出会いよりも別れの方が多くなっております。法要で読まれる表白の中の亡くなられた方々のお名前を聞くと、本行寺で勤務し三十六年、様々な思いがよみがえりました。

生者必滅（生きているものは必ず死ぬこと）会者定離（出会った人とは必ず別れること）愛別離苦（愛しき人とも必ず別れなければならない苦しみ）を、あらためて思い知らされました。

今年こそは通常の報恩講ができるようお願いしています。
昨年お参りに来られた方も、来られなかった方も、今年の報恩講には是非お参りくださいますようお願い申し上げます。



恩を知り、感謝をする

広報部 山本悦也

報恩講では、十勝（鹿追）の玄誓寺住職、上本周司（うえもと・しゅうじ）師からご法話をいただきました。テーマは、「恩について」です。

「恩」は、古代インドの原始仏教の言葉「अति」（なされたる）が中国で翻訳された言葉だそうです。私たちは、「恩」というと「他の人から与えられためぐみ、いつくしみ」と思いますが、法話では特に仏恩（ぶつとん）についてのお話でした。

親鸞聖人が書かれた「恩徳讃（おんどくさん）」があります。本行寺で



は、それを毎月第3日曜日の「日曜礼拝」の法話の後に伴奏に合わせて斉唱します。

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

骨をくだきても謝すべし

「如来」とは阿弥陀如来のこと、「大悲」とは大慈悲、「恩徳」の「徳」も恩のことです。「師主知識」とは「師主」も「知識」も同じ意味で仏教の先生のことです。

意識すると「阿弥陀如来よりいただいた大慈悲の恩は、身を粉にする思いで報じましょう。お釈迦様をはじめとして、善き先師の人々のご恩も骨をくだく思いで感謝しましょう。」

上本師は、知恩院という浄土宗の総本山もあるように、自分がめぐみを受けていること、仏恩を知り感謝することがとても大切だとおっしゃいました。

寺子屋 子どもの集い

子どもの集い担当 岡 西 慶 照

令和五年七月三十、三十一日に本行寺において、寺子屋子どもの集いが開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大によって長らく中止していましたが、今年は四年ぶりの開催となり、17名の子供さんに参加していただきました。

最初は慣れない環境に緊張している様子でしたが、ゲーム大会やバーベキュー等の日程をこなしていくうちに、お寺にも慣れ、たくさんのお友達ができ、笑顔いっぱい、元気いっぱいの子供さんの姿を見ることができて、二日間通して楽しんでもらえたのではないかと思います。

また、合掌礼拝、「らいはいのうた」の練習など、楽しみにの中にもほとけさまの教えに触れてもらえた事も、大きな成果であると感じております。

今後もこのような縁を深めていただけますように、青年会の活動に取り組んでいきたいと考えておりますので、ぜひたくさんの方の御参加をスタッフ一同お待ちしております。

合掌



小学三年 佐藤 湊斗

さいしよは、家ぞくがいなくて、だいじょうぶかと思うけど、友だちがいて、ぎゅくに楽しかったです。

今どは、シャトルランやかたき、ふやしおにごっこなどやりたいです。

冬にとまりたいです。冬できるなら、雪がっせんや雪だるま作りとかをやりたいです。

今年楽しかったのでまた行きたいです。

小学六年 竹林 諒太

昨日は、きもだめしをやりました。正直こわかったのは、ふすまから先生の顔がでてきた所です。あと、その後には花火をやりました。灰で、絵をかきました。ドラえもんなどを書いて楽しかったです。

最後には、打ち上げ花火を見ました。でかい花火があつてすてきでした。

最高の2日間でした。バーベキューなどをしました。来年もきたいと思いました。みなさんには、感謝しています。色々なことを知ることができました。

中学一年 塚本 莉子

私は三丁四年ぶりに寺子屋に来ました。

知っている人は何人かいましたが、知らない人の方が多く仲良くなれるか心配でしたが、ゲームや一日目の夜のバーベキューや花火、きもだめしでうちとけていました。

一番楽しかった事はきもだめしでした。最初にホラー映像を見てから寺をまわるのですが、私達のチームはあまりおどろがずに進めたのですが、後半で花がたくさんある場所が少しこわかったです。

約四年ぶりの参加になりましたが、花火やゲーム、きもだめしなどもすごく楽しめました。

また来年も寺子屋に参加出来たらいいな、と思いました。



本行寺歴史探訪

—その24—

「遍照十方」編集委員

福田 昭南

ご本尊 阿弥陀如来像

本行寺の内陣正面に安置されているのが、ご本尊の「阿弥陀如来」という仏像です。

仏像とは、仏教の教義に基づく法（教え）を具現化、人体化し彫像したものをいいます。

その興りは紀元一世紀と伝えられ、古代インドにおいては釈迦像のみの仏像でしたが、大乘仏教の発達に伴って多くの「仏」が生まれ彫像されていきます。

私達が一般的に「仏像」といつているのは、如来（仏）、菩薩、明王、天の四種を彫像したもので、そ

れらには特有の働きがあり、その特徴が仏像に表現されています。

寺院では必ず「ご本尊」として仏像（又は画像、仏画など）を安置して信仰の対象としますが、これも宗派によって様々で、複数のご本尊を安置したり、また寺の事情や因縁によって菩薩や明王をご本尊としている寺もあります。

しかし、浄土教系の教団（十三宗のうち四宗）では、坐像、立像の違いはあっても阿弥陀一仏をご本尊としています。本行寺のご本尊を観てみま



ご本尊

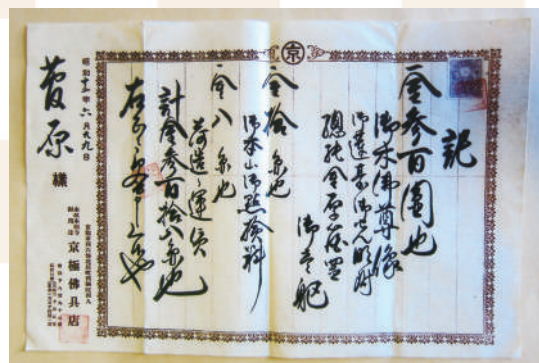


阿弥陀如来の印相



前傾姿勢になったご本尊

しよう。本堂正面の須弥壇に安置された阿弥陀如来立像。高さは約七十三センチの木像で両手は掌を前方に向け第一指と第二指を結び、右手を胸の位置まで上げ、左手は腰まで下げています。この姿は阿弥陀如来だけが持つ印相（手の動き）で「来迎印」といい、衆生を救うために浄土から迎えに来たことを表現しています。像の全体は前傾姿勢になっていて、今にも私達の前に現れそうな動きを示しているご本尊です。



ご本尊購入の記録

れが該当するものと思われます。以来八十数年、激動の時代を本行寺のご本尊として門信徒のこころを集め、今の繁栄を築いてきました。

一般家庭のお仏壇では仏像ではなくご絵像や六字名号をご本尊とする方が多いと思いますが、これも仏像と同じく法（教え）を形に現したもので何ら変わるものではありません。

「信は莊嚴より」と申します。立派なお仏壇でなくても、豪勢なお飾りでなくても、心ある莊嚴は「信」につながります。

法味一言

厭離穢土・欣求浄土（おんりえど・ごんぐじょうど）

（争いに明け暮れる世界をいとい離れて、平和な浄土の世界をよるこび求める）という仏教徒の基本姿勢。私は「厭離穢土・欣求平和」と言い変えて（戦争をいとい平和をよるこび求めつづける）と呼びかけます。

〔菅原式也のこんにちは第2集より一部抜粋〕

仏教壮年会

仏教壮年会 会長 草島守之

明けましておめでとうございます。

大きな不安と社会変化を招いたコロナ感染症も落ち着き始め、昨年の五月からはインフルエンザと同等の扱いとなりました。皆様も徐々に従来の生活を取り戻したのではないのでしょうか。

しかし、感染症は私達の空間から消失したわけではありません。時として健康被害だけではなく人命をも脅かします。そのため感染防止を心がけながら、お寺の年間行事など事業の実施について、

仏教壮年会としての役割を本年も果たして参ります。

活動としては各行事にあわせて、本堂山門から駐車場一帯に飾る提灯や幕の取り付け。そし



て婦人部と協力し、仏具のおみがきなど関係する方々と連携して護寺に努めます。

昨年九月には門徒様から寄贈された提灯約二百個の点検・修理を行う機会をいただき、皆様との大切な絆を感じながら感謝の気持ちを込めてご奉仕する事が出来ました。

終わりに、仏教壮年会は昭和五十年（一九七五年）に創立し、本年は四十九年を迎えることから、来年の五十年という節目に向けて大切な準備期間となります。関係各位の深いご理解とご支援をお願い申し上げます。

Cブロック研修会に参加して

総代 種市顯治

十一月は、釧路門徒組総代と幹部による合同研修会が開催されるのですが、今年は標記の研修会が根室組主管で釧路市内で行われましたので、釧路組



Cブロック講師

としての僧侶、総代、門徒幹部合同研修会をブロック研修会参加に替えて行いました。

研修会は十一月三十日（木）十二時より、釧路プリンスホテルを会場にCブロック（根室、釧路、十勝、北見西、北見東）の各組から一〇名の参加がありました。



本行寺からは住職と総代七名、門信徒役員十一名、仏教婦人部二名、計二十一名が参加しました。

「日常生活における念仏者の生き方」を研修テーマにして講演拝聴の研修でした。

開会式の後、教区総代会紹介報告会が行われてから『御開山の發揮（おてがら）』を演題に、本願寺派布教使で山口県照蓮寺前住職の岡村謙英師（写真）の法話を二席拝聴しました。

「御開山の發揮（おてがら）」とは、親鸞聖人が宗派を開かれた（おてがら）のことです。その一つは、阿弥陀さまは「全てのものを救う全てのものを仏として迎え入れる」だから「ありがたい」という意味で、「南無阿弥陀仏」という名号を唱えるのであること。

もう一つは、浄土真宗では、法話を良く聞けば「おちるまこと」「助けるまこと」の二つのまことがあることが分かること。

親鸞さまは、「愚者にかえって往生すれば、阿弥陀さまは、おちる私をすくってくれる」と、御文章に書かれていますと御法話を閉じられました。

南無阿弥陀仏

●門徒僧侶合同研修会●

（仏教壮年会研修会併修）

お聖教を学ぶ 公開講座

「大經のつとめ」

日時 令和6年2月4日（日）

午後1時から午後2時半頃まで

（受付午後1時 開会式午後1時15分）

◆場所 本行寺（釧路市弥生2-11-22）

◆講師 本願寺派輔教・行信教校前校長、常見寺住職利井唯明先生

◆受講料 無料（どなたでも参加出来ます）

編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年も地球沸騰化といわれる環境の激変やウクライナ、パレスチナの問題など心配事が絶えることはありません。

また、チャットGTPなるものが現れ、私達の未来を一新させるようなAI技術がだれでも使えるようになりそうです。

そんな生活環境のなかでも、私達は様々な不安に悩む日常で、事あるごとに「南無阿弥陀仏」と心で念じ、いつも安穩なところ、前向きな気持ちでいたいものです。

広報部一同